

# 議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和4年12月27日（火）  
9時1分～11時10分  
全 員 協 議 会 室  
（オンライン併用）

- 【出席者】三浦委員長、村武副委員長（オンライン）、  
肥後委員、村木委員、大谷委員、沖田委員、川上委員、小川委員、  
上野委員、川神委員  
【事務局】河上局長、小寺書記

## 議題

### 1 はまだ議会だよりVol. 68の編集について……………資料1

#### (1) 校正作業

ページ	担当委員	記事
1-5	川上委員 肥後委員	表紙、12月定例会議ポイント、トピックス、 議案の賛否、個人一般質問（7名）
6-9	小川委員 上野委員	個人一般質問（13名）、読者アンケート
10-13	沖田委員 川神委員	まるよみ、市民対談
14-16	大谷委員 村木委員	委員会活動レポート、今号の読者アンケート、 お詫びと訂正、あとがきほか

#### (2) その他

### 2 議会報告会について……………資料2

#### (1) 実施方法提案

#### (2) その他

### 3 高校生との意見交換会について……………資料3

#### (1) 各委員の意見確認

#### (2) その他

### 4 その他

#### (1) 昨年のはまだ市民一日議会の対応確認

【次回委員会開催予定日】令和5年1月24日（火） 午後1時30分から

【議事の経過】

[ 09時 01分 開議 ]

三浦委員長

議会広報広聴委員会を始める。出席委員は9名、村武副委員長は本日オンラインで参加している。定足数に達しているので議題に沿って委員会を進める。

先般、大学生との意見交換会、SNSの講習会には委員にもご参加いただき感謝する。大変有意義な会になったと思う。会派でも調整いただいたので、その件もこの場をお借りして御礼申し上げる。引き続きよろしく願います。

では議題に沿って進めるが、今日はその他を入れて4点である。

1. はまだ議会だよりVol. 68の編集について

(1) 校正作業

三浦委員長

校正作業を進めていきたい。それに先立って小寺書記から何かあるか。

小寺書記

( 以下、資料をもとに説明 )

三浦委員長

事前に振り分けさせてもらっている担当ページに沿って校正を進める。

《 以下校正作業 》

(2) その他

三浦委員長

その他68号に関して皆からあるか。

村木委員

個人一般質問の個人を取ると言われたが、14ページ下から2行目に「必要に応じ委員会代表質問や個人一般質問につなげていく」と書いたが、その辺の統一性が要るか。個人一般質問を持ってきたのは、4ページの右上の市政を問うに「20人が個人一般質問」と書いてあったため。そこまで調整しなくてもよいか。

河上局長

最初のところは後づけで、後になったら個人一般質問だけだったのでよいと思うが、予定のところは今からなので、もしかしたら委員会代表質問があるかもしれないので、個人一般質問だけの表現はよくないかということで。予定を入れる際は一般質問としようとして事務局で統一したところである。

小寺書記

一般質問に、委員会代表質問と個人一般質問があるという形で、

村木委員  
三浦委員長

これからの予定だとどちらがあるか両方あるかもわからないので、一般質問という言い方をさせてほしい。もう終わっている日程については内容が確定しているため名称を固定させた。福祉環境委員会の記事は両方出ているので問題ないとする。

理解した。

以上でよいか。1時間経過したので少し休憩を取りたい。

[ 10時 04分 休憩 ]

[ 10時 12分 再開 ]

## 2. 議会報告会について

### (1) 実施方法提案

三浦委員長

委員会を再開する。本日、正副委員長と事務局とで協議しながら案を三つほどつくってきた。皆に示しつつ協議してほしい。私から説明する。配信した案を見てほしい。

( 以下、資料をもとに説明 )

三浦委員長

皆で協議し方向性を決めて、これは議会全体で行うものなのでここで取りまとめた方向性をもって全員協議会に諮り、全議員の了解を得て実施に移っていきたい。皆の意見を伺いたい。

川上委員

これまでを踏襲するA案は、確かに確実性は高いのだろうが私としては最低でもB案の26か所プラスアルファでやったほうがよいと思う。まちづくりセンターであれば十分人を集めることも可能だし、そこへ伺うことで地域性が見えてくるので、議会としても非常に有意義だと思う。C案までいくと今度はどこをやるかとなって非常に難しいので、B案くらいが差し向きよいのでは。

三浦委員長

オンラインについてはどうか。

川上委員

現時点でオンラインをする必要があるかどうか私はまだ疑問点が多い。そこまで発展する必要はないのでは。

川神委員

私も同様の意見だがA案は今までやってきて、少しカバー率が悪いと思っている。C案は議員の負担が上がるとまずい。あまり言うてはいけないかもしれないが、現実問題として協働のまちづくりをやってきて、まちづくりセンターを中心として今いろいろなことを進めようとする中では、それを中心に議員が出向いて、そのエリアを中心きちんとしたお話ができればよいかと。それ

である程度カバーができるのと、住民の方とももう少し密着度が高くなるのでは。

オンラインに関してはいろいろ試行錯誤していかないといけないと思うが、例えばまちづくりセンター単位でやった場合に、一番大変なのはそれに参加してきて質問などやり取りの整理を同時進行でやるのはかなり厳しいと思う。当面は、配信があって見に行けるが質問はなしで、やり取りだけはきちんと見られるという形で、行けずとも見られる状況をつくるのが第一段階だと思う。

沖田委員

私はどちらかというとな案をずっと言い続けてきたような気もしている。ただ、いきなり44か所やるのはさすがに無理だろうと思う。するとB案は非常に現実的かと考える。やはりオンラインの参加は必ずこれからやっていかないといけないことだと思っている。まちづくりセンターにはWi-Fi環境が整っているの、いろいろな意味を考慮すればやはりB案だろう。

オンラインはまだわからない部分も多々あるとは思いますが、まず質問を受けつけない傍聴から始めてみて、段階に応じてやり方を変えていく必要があるのではと思っている。

肥後委員

私もB案が、議会報告会を実施するに当たっては落としどころと思う。C案は一足飛び過ぎる。果たして参加人数が44か所を1年間でやるのに、しっかり見込めるのか。こういう言い方をするとどの案もどうなのだとと言われてしまうが、チャレンジするという意味でB案が全議員では一番よいかと。

オンラインの実施に関しては、持論だがどうしても当委員会を含めて市民に対して発信はしているつもりだが紙媒体とホームページとなると、ホームページは見に来てもらわないとならないので、オンラインの議会報告会を実施したところで、情報発信する面がデジタル、SNSとかを議会として活用していないので、どれだけ参加者を募れるのか疑問になる。しかしこれは今後進めていかないといけない取り組みだと思うので、マニュアルも作成していくべきだと思う。

大谷委員

まずA案そのものを私が経験していないので、判断するベースがまだないのが正直なところである。したがって今この案を受け取った段階での思いとしては、会派に持ち帰ってほかの方の意見も聞きつつ自分の意見を構成したい。

オンラインについてはやらなくてよいと私は思っている。その場の中で論じることで、雰囲気とか、お互い即座に意見を共有し合える。そういう中で地域の声や雰囲気を感じる事が大切という思いがしている。

上野委員

旭は5か所まちづくりセンターがあるが、今までは1か所、例えば和田地区でやるならそこへ町内の人皆集まる格好で人数は多かったがなかなか高齢者の声を聴いたりはできなかった。まちづくりセンターごとにやるなら周知もしっかりセンター職員にやってほしいし、場所もあるしということで、また近くの人参加しやすいのでB案にしてほしい。

オンラインは少しずつでも慣れてもらわないといけないし、やってみたいと思う。

小川委員

いただいた意見をどのように共有するかが一番ポイントだと思う。今でも市民一日議会や読者アンケート等を含めていろいろな形で出た意見を常任委員会に振り分けて、回答案を検討している。そういう観点からいうと、C案となると、議会報告会をやったときには報告書をつくっているが、あれもある程度整理してポイントをもう少し簡素化しないと相当な作業量になる。それも通年的な格好になるので、とするとB案当たりが妥当な線だと思う。

オンラインについても基本的にはコロナ禍での対応という中であるが、もう一つの観点は参加者の固定化について、オンラインに親しんでいる若い人たちが参加できる環境をどうつくるかという意味では、考える余地があるのではないかと思う。それを議会報告会と同じ形ではなく別枠のほうがより進めやすいのでは。したがって通常の議会報告会の回数を増やしてB案にしつつ、オンラインはオンラインとして単独で計画する方向のほうがよい。

例えば先ほど来の意見ではB案が多いが、これを基本にして大谷委員が言われたように持ち帰ってこれをベースに考えてみたらどうかと感じた。

村木委員

私も議会報告会さえ経験してない。とは言いながら現職のときにはA案の中で、当時公民館を使っていたこともあって見に行った。議会報告会と言いながら当初予算の説明をピンポイントでされて、意見を求めて持ち帰るといった、これは議会報告なのかと思っているので、実際に今度するのがどういった形かは考

える必要があるかと思っている。まちづくりセンターは地域の拠点という位置づけでもあるので、B案で話を進めていくべきかと思っている。

オンラインについてはその場の雰囲気というか、現場の熱意や思いもあるので、そう考えるとまずは現地のみでB案を進めてみてはと思う。

村武副委員長

実施形態は私もB案がよいと思っている。今までA案でやってきたが、旭地域は1か所に多くの人に来て、皆の意見を伺えなかった。B案になればそこがもう少し分担できるかを感じる。現在まちづくりセンターを拠点にした協働のまちづくりを進めているので、センター職員にも協力していただいて、より多くの方に来ていただくことをしてはどうか。

オンラインの実施だが、リアルな議会報告会との併用はなかなか難しいかと感じている。意見を伺うことも難しいところもあると思う。それと機材や配信の準備も結構手間がかかると思う。もしするならライブ配信的な感じ。オンラインのみならず1回やってみたい。もちろんリアルでその会場に来て話をするのがとても大切だと思うが、それは別でやるので、それ以外。若者や子育て世代の方などは小さな子どもを連れて会場に行くのはなかなか難しいと感じている。また先日意見交換をした県立大学生にも呼びかけて、オンライン議会報告会を一度やってみたい。やるに当たって例えば県立大学のゼミ生などにも相談して協力いただくなども考えてもよいかと思っている。

三浦委員長

皆の意見を伺うとB案が多かったように思うが、冒頭に申し上げたようにこの中で方向性を決めて、最終的には全議員にご理解いただいて実施していくので、一旦本日の議論を会派に持ち帰っていただき、ほかの議員の意見も聴いて再度持ち寄って協議する形で進めたい。手法だけでなく、内容をどうするかについても併せて持ち帰っていただきたい。先ほど村木委員から指摘があったが、この議会報告会を通じて何をするかという話。春に実施する議会報告会は当初予算の概要説明をして、皆にそれを説明しながら簡単な質疑応答を受けるとともにテーマを設定して意見交換を行うという、2部構成のような形でやっていた。議会報告会といっても予算報告会のような形である。それが従来のやり方だった

のだが、中身について提案があればそれを受けて、併せて春に実施する議会報告会についてはこういう内容でやりたいということと併せて皆に諮れたらと思っている。

オンラインだが、仮に質疑応答を一方通行で行うものなら機材を準備して、司会がきちんと仕切れば、挙手された方を指名するので質問を受けることはできるかと思うが、ただ、今までやってきたワークショップ形式だとパソコンが何台要るか、どのようにそれを回すのかといった大きなオペレーションの問題が出てくるので、併用は流石に難しいかと思う。

皆から内容についても少し意見を伺いたいがどうか。実際にこういう形にしたらよいのではといったアイデアがあれば伺う。

村木委員

今こうして議員になって思うことというのは、課長当時には「これが議会報告」なのだと思ってずっと見ていたが、実際は意見を伺って持ち帰ることなのだ。実際に議員の立場になって、もし可能であるなら一つのテーマで皆からの意見を聴きながら、議会としての意見はなかなか言いづらい部分もあるので、どのように言えるか正直不安だが、集まった方々で一つのテーマに基づいて議論の場は持ってもよいかと思っている。

三浦委員長

今はどちらかというところと聴く時間を多く設けるような、一日議会もそうなのだが、議会報告会となると議会の活動を報告する時間も必要かというところがあって。それを、これまでの意見の中でも議会の活動をきちんと報告できているのかなどあったと思うが、それも併せて、どういう時間割にしたらよいか。

川上委員

確かに地域井戸端会のワークショップも大変なのだが、議会報告会で簡単に現状を報告して意見を伺うとなると、聴いてくれという部分が少なくなる。何人かの発言にしかならないから。聴く部分を増やす必要がある。固定した1人、2人というのが今までの状況だと思うので、なるべく多くの方に発言していただくためには、全体の7割くらいは聴く部分だと思う。

大谷委員

実際に出向いて経験してない点もあるが、そこに参加したときの参加の達成感を考えると、参加した人は必ず発言しておかないと達成感をなかなか得ていただきにくい。また現に発言いただくことによって我々もその声をじかに聴くことになるので、やるならワークショップのように班別で、それぞれの人が必ず発言する

三浦委員長

ような場面を形成した中で実施するのがよいのでは。各班に議員が1人、その中で声を聴いて集約する形がよい。

ほかに意見はあるか。ちなみに議会基本条例の第23条に議会報告会等と位置づけられている議会報告会は、議会は議会活動に関する情報を積極的に公開するとともに、市民の意見を把握し議会活動に反映させるため、議会報告会等を開催するものとするところがある。見直して今さらだが、議会報告会というよりは議会としての広聴会のような位置づけで書かれている。議会報告会とここには書かれているが、内容的には市民からいろいろなご意見を伺いに出向く活動と理解するほうが正しいかと思っている。もちろん今議会としてこのような動きがあるということは簡単に説明することはあってもよいと思うが、広聴する場を多く設ける感じになるのかと思う。

川神委員

やり方についてはどうか。ワークショップ形式のようなものが、これまでのやり方がよいのか。本当に市民に座っていただき議会と参加者という形で、まとまって意見交換する形がよいのか。

基本的にはやはりワークショップ形式が一番時流に乗っているのだと思う。例えば対面の教室スタイルなどでやると、手を挙げて言いたいことが言えない方が結構いる。本当は終わった後に捕まえて聞いてみたいと。皆の前では恥ずかしくて言えない、でも言いたいというジレンマを感じている方は結構いた。となるともう少し小さい単位で、ワークショップ形式で意見を聴くことにする。最低限きちんとテーマを振って行って以前もやったが2テーマなら2テーマで分けて話をして、最終的に誰かが発表して総括してくれる。最低限の話が聴けるといったほうが、距離感が近い、達成感がある、自分の思いを未消化のうちに帰らない。そのようなことをベースにして今から積み上げしていけばどうか。

三浦委員長

テーマの設定はどう思われるか。テーマを設定するほうが議論としては深掘りしやすくなると思うが、デメリットとしては、言うつもりで来たことが言えない。

川神委員

事前に地域から二つ三つ選んでもらい、それに対してやる方法もある。公平に見えるのだが、声が大きいか、それなりの役職を持っている方が言えばそれに追従するといったこともある。地域課題は当然向こうでないといけないことがあるので聞かねば



ならないが、例えばもっと大枠で、駅前の問題、ゆうひパークの問題、リハカレの問題。それを浜田市全体の問題としてどうすればよいのか。議員自身もしっかり考えないといけない。そういったことに関して振っていく方法。例えば地域から課題を一つ、こちらから投げかけるテーマを一つみたいな形でワークショップをやってみるのはどうか。定数の問題、議員の成り手問題などのようなテーマを一つ。あとは地域密着課題について深掘りする。二段構えにするなどはどうか。

三浦委員長

こちらからの投げかけを一つと地域から一つテーマを出す。広がり過ぎると限られた時間の中でワークショップをやること自体が難しくなってくる、期待できるものが持ち帰りにくくなるかと思うので、それは別の機会にでもいろいろな形で声を届けていただくことはできると担保して、ワークショップはワークショップで一緒にテーマを協議していこうといったほうが、進め方としてはよいのではと私は思うが、皆はどうか。

大谷委員

基本的にはそういう方向性はよろしいかとは思う。ただ、26地区のまちづくりセンターで実施すると仮定したとき、各地域にいろいろ特性があると思うので、各地域と実施に向けて協議する中で、やり方に少し幅があったとしてもよいのでは。議会は合意形成をしていく場でもある。ワークショップにおいてもその合意形成の、ちょっとしたことを体験していただくように、状況によってはテーマそのものも班の中から出してもらいながら、その中から絞ったテーマについて論議して、班の中で一定の意見集約ができればそれをもってその班の一つの意見として上げていく形態もあってよい。論議の幅は持ちながら準備を進めたほうがよい。

小川委員

こちらから地域に出向いたときに議会側が聴きたいことと、地域の方が議会に取り上げてほしいあるいは検討してほしいという地域の課題、一つずつの形で整理されながら26か所のテーマを設定して進めたら、皆集中できるのでは。

三浦委員長

方向性として議会から投げかけるもの、地域から出していたくものというような、二段構えで進めたらどうかということで、一旦持ち帰りの種にさせていただきたい。

議会から投げかけたものについてはいただいた意見を議会の中で適切に参考にさせていただくが、特に地域から出てきた意見を

どのように返していくかというところも協議が必要だと思う。これについても次回委員会までに持ち寄っていただく形でもよろしいか。委員会で一旦まとめないと、全員協議会に諮るのが難しいので、そういったことを各委員にさせていただき、持ち寄って、次回委員会時にはおおむねこの委員会内での考え方を取りまとめ、全員協議会に諮る形で進めたい。

オンラインの開催については今日意見がそれぞれ出たので、これについても協議いただければと思う。よろしく願います。

この委員会には参加されていない会派の方もおられる。全部に係ることなので、その部分は正副委員長と事務局とで対応させていただき、そちらの意見も考慮したい。ご了解をお願いします。

## (2) その他

三浦委員長

この件は以上でよいか。

( 「はい」という声あり )

## 3. 高校生との意見交換会について

### (1) 各委員の意見確認

三浦委員長

沖田委員から提案があるのでよろしく願います。

沖田委員

前回の委員会で、高校生を対象とした井戸端会ということで。そのきっかけは浜高生とのHIRAKUのときに議員と話をしてみたいという意見があって考えてみた。手違いで対象校に智翠館が抜けていた。あとは資料のとおりである。井戸端会を高校生対象にしてやったらどうかという意見である。何か仕掛けがあるわけではなく、ざっくばらんに地域でやっている井戸端会を高校生対象にしたらどうかという感じである。皆でもんでいただいて、よい形になればと思う。高校生対象なので大谷委員の意見を伺ってみたい。

大谷委員

前回提案時にも発言したが、現場の感触もと思い、2校に出向いてこのような企画をどう受けとめるか意見を聴いた。要請があれば協力はやぶさかではないが、チラシを置く、掲示するくらいでは生徒はなかなか出ていきにくいのではと。声かけなどの促しがないと。ここには目的が示されていないが、生徒にとっての教育

的成果がどこにあるのかという点が見えると、促しもしやすいという声はあった。

また、他校の生徒と交わることについては心理的にハードルが高い面もあるので、来ていただくのが一番よいという声もあった。

ある方の場合は、魅力化コンソーシアムの枠組みの中で、まずはやってもよいという声もあったことを一応披露しておく。その上で私の意見としては、よほど準備していかないと集めにくいと感じている。声を聴くのは大変よいと思うが、仕組みという点をきちんと提示した中で協力を仰いでいくことになると感じた。

三浦委員長

沖田委員、最初に高校生からの話を聴かれたときに、議員になりたいと関心を示されたところが動機だったように思う。今は大学生のインターンシップなど共同研究でやっているが、そういうイメージなのか。それとも今回の提案のような井戸端会的な、議員との対話の場をつくる感じなのか。どこに一番目的を置かれているか。

沖田委員

その辺は恥ずかしながら何も考えてない。ただ議員になりたいという生徒が1人いて、彼女もこれといって具体的なものはなかった。話がしてみたいというところからだった。

大谷委員が言われるように、本来こちらも目的を持ってやっていかないといけないのはもちろんだと思う。ただ、今これを提案した時点で、目的は正直まだ持ち合わせていなかった。

三浦委員長

こういった事業を実施するに当たっては、目的の明確化は必要だと思う。大谷委員が市内の学校に事前にヒアリングするなどご協力いただいたところもあるが、現状を踏まえて、最初に沖田委員が接点を持たれた高校生の要望に応えたいという気持ちを、ぜひ形にできたらよいとは思っているので、改めてどういった目的でどういう形で高校生との接点づくりをするのが、我々の求める効果もそうだし、そもそも高校生のこういう要望に応えたいというところを少し結びつけていただくような目的の整理を。開催時期などは焦るものではないと思うので、この企画書をもう少し練り上げていただいて、再度また提案いただく形で。

沖田委員

そういった意味で、個人的な目的という部分だと、先般大学生と話していてつくづく思ったのだが、そもそも市議会議員の仕事はどんなものか、というところから必要だと思う。井戸端会とは

称しているが、意見を聴くことはもちろん大事だし聞きたいが、それ以前に、そもそも地方議員とは何かというところをわかってもらう場になればとも少し思っている。また自分なりに考えて提出したい。

三浦委員長

議員の仕事を解説するようなイベントで、興味を持った中高生を募るとか。そういう形のイベントに仕立ててもよいかもしいない。少し練っていただいて。協力いただけそうな委員がおられたら、ぜひサポートしていただけたらと思う。よろしく願います。

#### 4. その他

##### (1) 昨年のはまだ市民一日議会の対応確認

三浦委員長

この件は先般ご案内したかと思うが、読者アンケートに令和3年度に開催したはまだ市民一日議会のその後の対応についてというものがあつた。どのように対応するかは書面で報告申し上げてはいるが、再協議等の対応の必要性について各委員会に、改めてその後対応すべきものがあれば、再度協議をお願いするようなご案内を当委員会からするという話になっていたかと思う。

こういう形で文章をつくり、令和3年度分のテーマ一覧を各所管委員会の委員長宛てにご案内させていただこうと思うが、よろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

ではこのとおり作成し、各委員長にお願いしておきたい。

皆から何かあるか。

小川委員

少し気になるのは、今月15日の山陰中央新報の記事の関係で、一部議員から、この企画そのものは広報広聴として議論されているのかといった意見があつた。どういう経緯であのようになったのか。たまたま主権者教育やインターンシップの受入れの議論はあつたが、ああいった政策議論をインタビューに答えた形かはわからないが新聞紙上に載つたことについて、委員会の中で話があつたのかと聞かれた。聞いてないと思ったので。

三浦委員長

全員協議会でも説明させていただいているが。

小川委員

新聞記事に載つた内容も具体的に話があつたか。

三浦委員長

インターンシップの受入れをするということで、受け入れる学生から希望のあつた、今回の件は肥後議員と村武議員と私という

ことで指名があったので、その中で意見交換会をさせていただくと、委員会と全員協議会にて報告した。その件があのような形で紙面に載ったということで。報告はさせていただいていたかと思う。会派内でそのようなご意見もあったのであれば、変な誤解が残ると嫌なので、誤解を解いておいていただきたい。

ほかにあるか。

( 「なし」という声あり )

では小寺書記。

小寺書記

なければ次の委員会の日程だが、1月24日火曜日でどうかと思っている。午前か午後かどちらでも大丈夫かとは思いますが、委員の都合を伺いたい。

《 以下日程調整 》

三浦委員長

次回は年明けて1月24日13時30分からということで。先ほどもお願いした議会報告会の方向性を当委員会としてまとめたいと思うので、それまでにほかの議員の意見を伺い、各委員の考えをまとめてきていただければと思う。村武副委員長、よろしいか。

村武副委員長

はい。

三浦委員長

本日用意した議題は終了した。今年最後の委員会になった。大変お世話になった。多くの活動ができたことも委員の皆のご理解、ご協力のおかげだった。来年も全員一丸となって活動していきたい。よろしく願います。

これで議会広報広聴委員会を終了する。

[ 11時 10分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀